

羅瑪款帖
全

洋学文庫
文庫 8
B 124



邏瑪款帖

嚮余讀白石源公所著採覽異言見

文席耽邏瑪大主教客游設吾

邦以為奇事客歲在邑曝藩府藏書偶獲長崎
鎮府所錄清人及蠻船傳說三十許奏表曰華夷
變態中有官所劾邏瑪客及吾人連其事者款狀
一節益詳異言所紀竟抄附之源公記以弘異聞云
安永戊戌春

島原

佐維章識

白水曰佐維章字文爾島原藩臣也好學能詩文
其為人容貌一如華人余亦友善



39-8231

易人十口之覺

一 易人十口の内ろく海北と云ふ少許の地は
中五志の所とて中十の節に居るに在り

一 親族の故切支丹宗門は師はわが家と

一 親國元母存命の存中も兄弟も少許の親國の

少許の妹も少許の父を死すも親族の子に在り

一 親族の故切支丹宗門の想自れんと願ふに在り

も此の十と云ふ年以前に十村日の上切支丹宗門の法

を勤めたる海海は此の十村日の上切支丹宗門の法

言智の年以前に十村日の上切支丹宗門の法

同門の切支丹宗門の法を勤めたる人



門は悉く今な唐へ事ら共唐人の風俗に如し

一 日本衣類形刀と呂宋の衣類と人月顔と船中とくは
中に伴ひ呂宋より如く唐中より日長衣履少く飛入
呂宋よりくは日如く唐より同くくは如く一洲に
事ら共唐中

一 日本、事ら共唐中より如く唐中より事ら共唐中
事ら共唐中より如く唐中より事ら共唐中
何の國よりとも此は法所如の事ら共唐中

一 和局日本より如く唐中より事ら共唐中
又日本國への如く事ら共唐中
又日本より如く何所の如く事ら共唐中
物自中事ら共唐中より如く事ら共唐中

門は悉く今な唐へ事ら共唐人の風俗に如し

一 日本衣類形刀と呂宋の衣類と人月顔と船中とくは
中に伴ひ呂宋より如く唐中より日長衣履少く飛入
呂宋よりくは日如く唐より同くくは如く一洲に
事ら共唐中

和局日本より如く唐中より事ら共唐中
又日本國への如く事ら共唐中
又日本より如く何所の如く事ら共唐中
物自中事ら共唐中より如く事ら共唐中

かびきん

和局日本より如く唐中より事ら共唐中
又日本國への如く事ら共唐中

子
十月

通事月謝

通詞

皇國入致事持の大成の内伝色しん

一 皇國なるものそのの鏡の極妙也

そ

皇國入致事持の大成の内伝色しん

此の

皇

校 守中

此の皇の大成の内伝色しん

此の皇の大成の内伝色しん



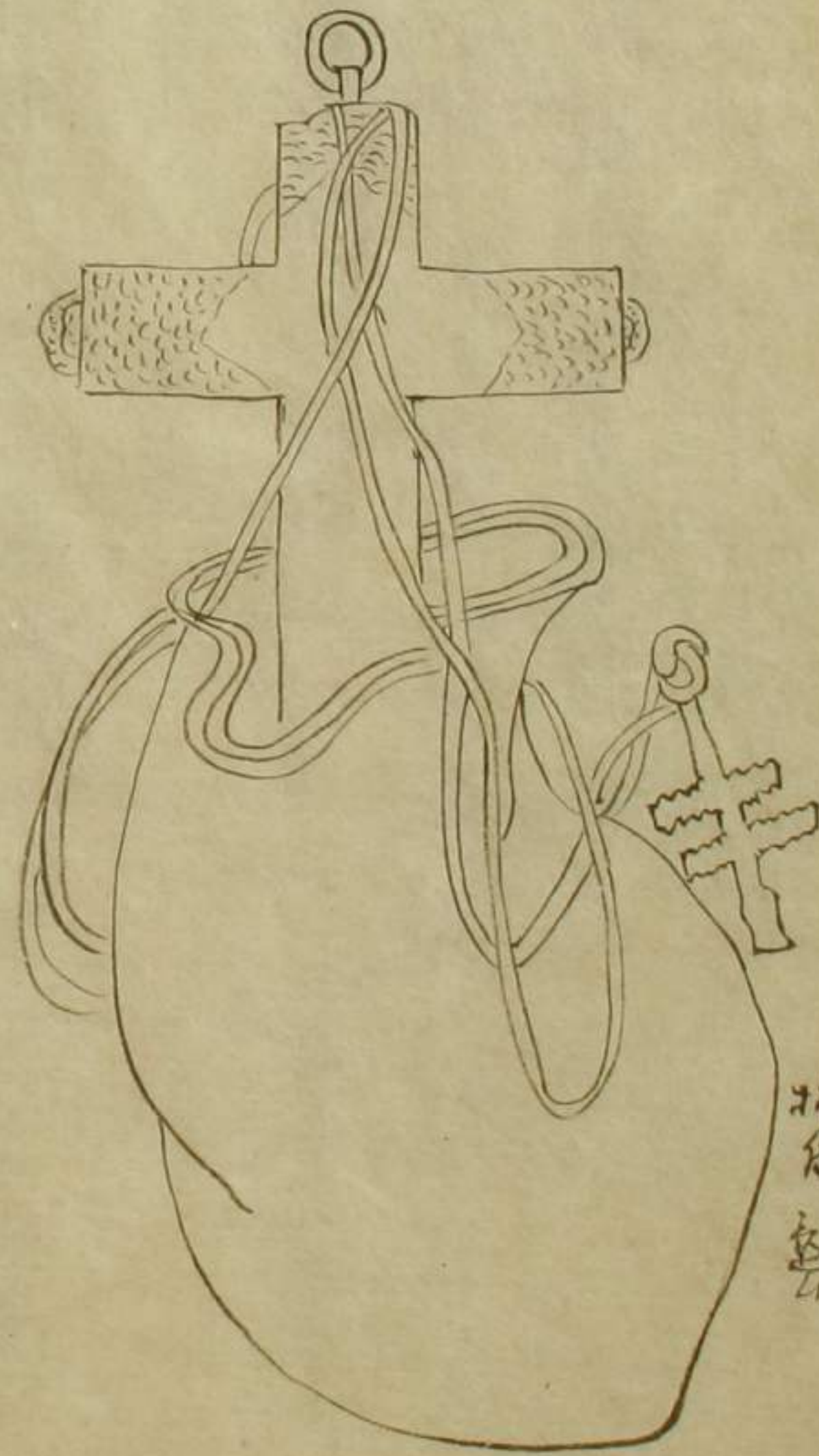
わがまはさるるは成よりくねりのまゝてふん



一 切しむく 梅人歌

玉國人の子は年々人形をきくすゝと十室の
そのまゝに希成をまひすにあきつゝのまゝに
人形系二重のまゝに切しむく梅人歌
古き金入の形をまひすゝ

一 全此鏡の形物も組裏浪華鏡に入
 一 今より多く振る内子人形形物も中二
 叶果異國へおるく組鏡の形物のいさな
 あつたらや物兼今より多く振るいあつた
 上やちやあつたは又大切のいさな
 物も宗門の道具も形物もいさな
 ましとやうな



此の形物のいさな
 植付
 意

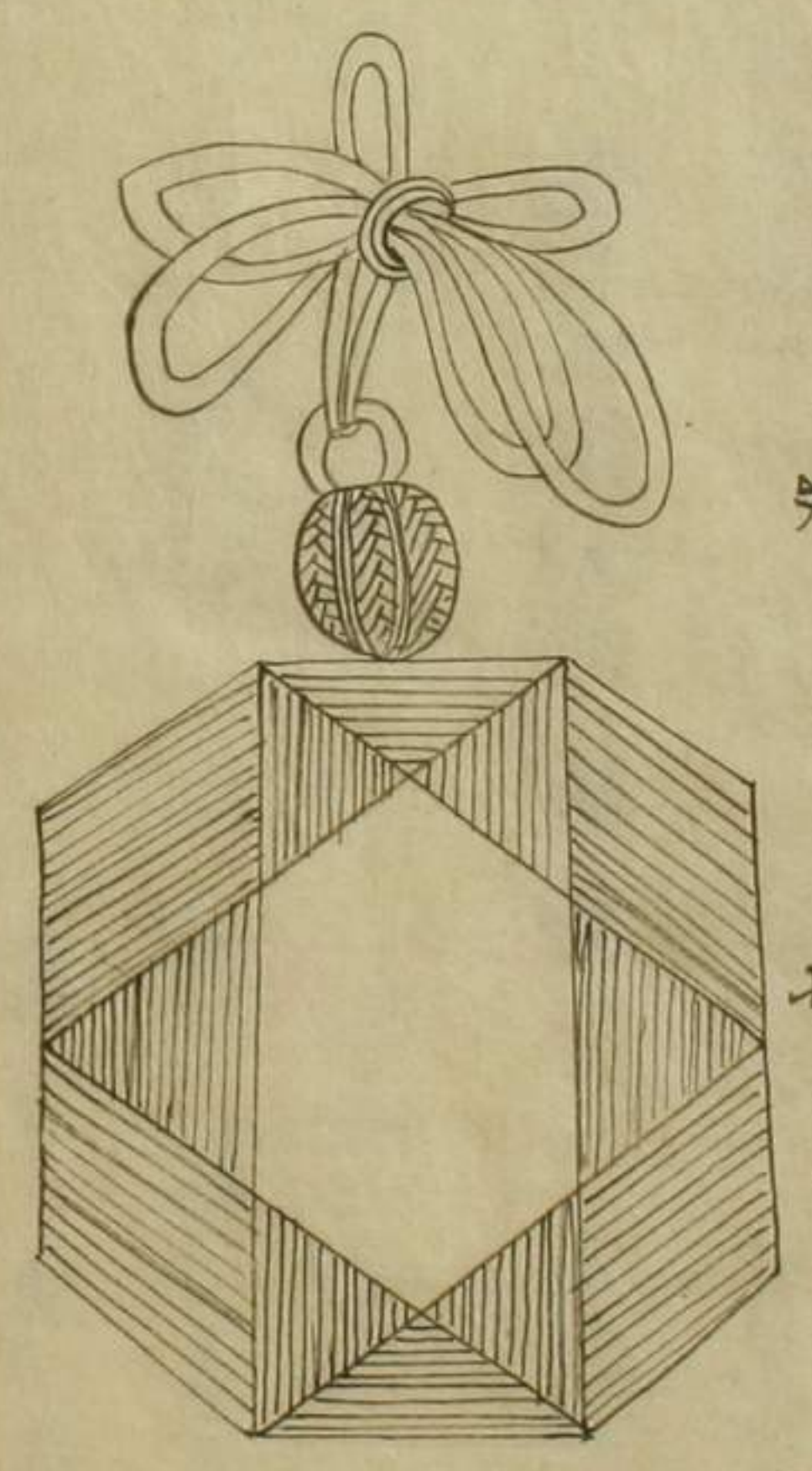
一 守戒此極小極細徳儀なる物

是

細中：横文字此 書物なり

呈國入： 此等より 是も 甚小なり 甚小なり 甚小なり
りの 重なり 中より 甚小なり 甚小なり 甚小なり 甚小なり
は

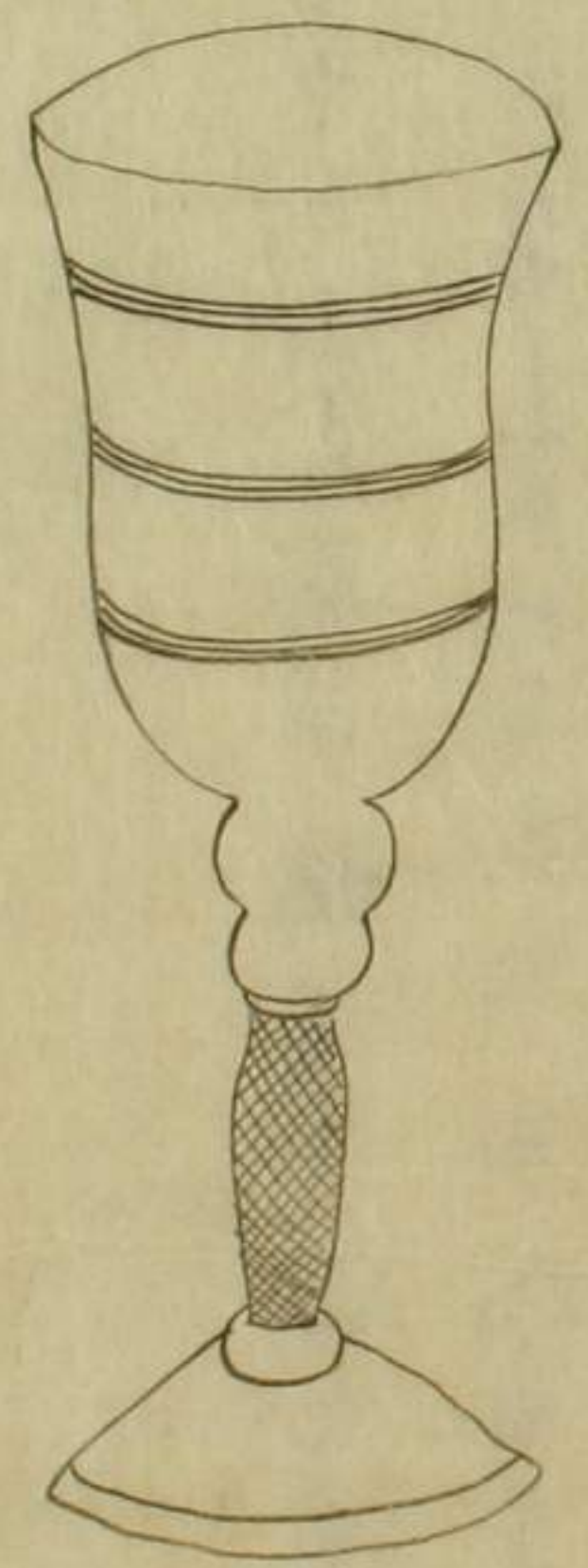
上はもに口なるもの 廻り 二つあり ありあり ありあり



一 銀にて 猪口の 極小極細 徳儀なり

是

呈國入： 此等より 是も 甚小なり 甚小なり 甚小なり
此等の 一なり



外銀子 極細なり
金銀流し 等の
とあり

此等 赤筆 此等より 入るもの 金の 一なり 二なり 三なり
なり

一 芋焼く梅お好しの如く
今更きの

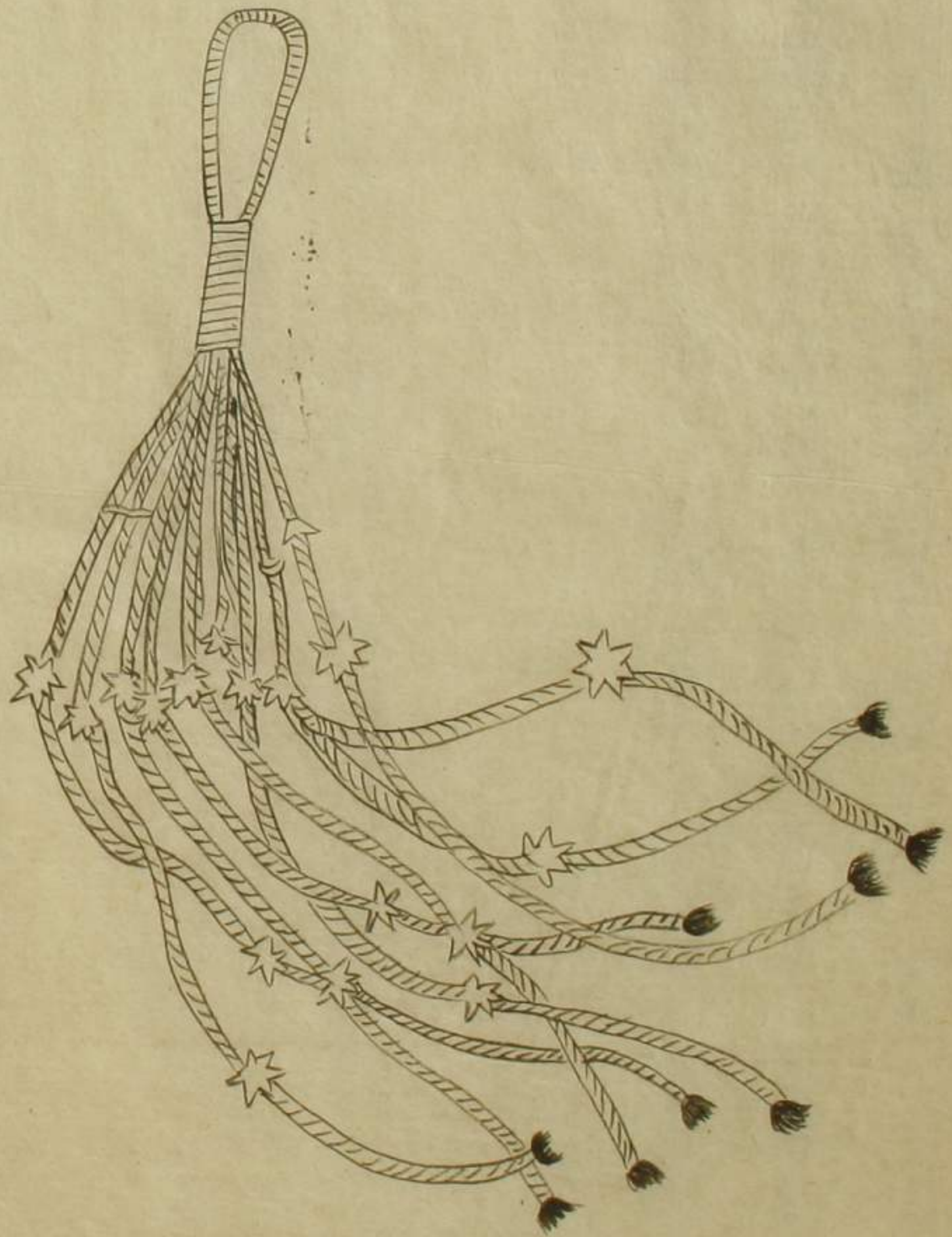
き

異國へはお尋ねなさい
異言能く時ふは焼く
平家のお補佐
のよ

芋あましくは
花は梅の角まは
梅も！
信国まは
如くまは

一 呂宋國少々百部金

三

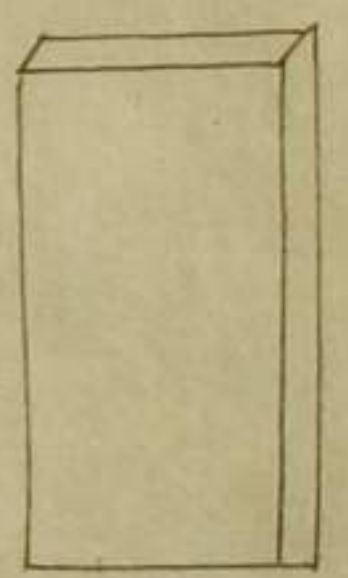


掛目九千八百

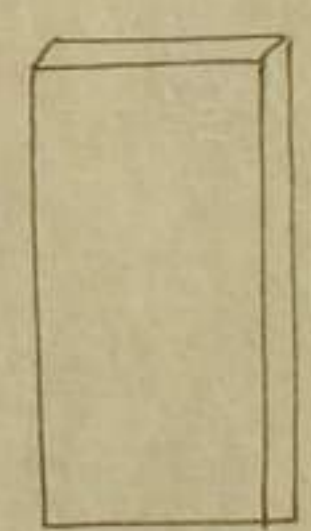
此通此金 硯墨此物 少以中 少物 尤喜此方 是
 亦用此金 交與此物 少於中 字所方 少
 此物 懸 附 見 方 少

一同板切此板多令 大示

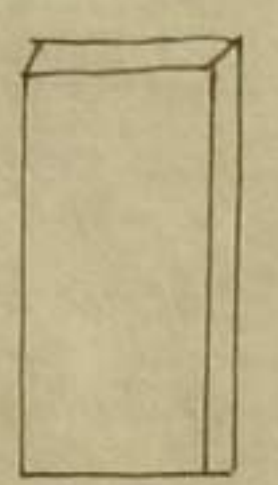
百八十一



拭目二及七卜余



拭目二及余



拭目一及五卜

以令大小令百以積其數
拭目惣令之百以千五及

一月小十在令

百七居程

一月日午少程

居八

仁之新令

一液

一極

仁之

寬永日而液

七居古液

唐照智液

三居液

石色所集之山以終山又

一 横交字此五故

二十四段

作一ろくま物目のちりまの性成切りの中を扱ふ

一 字門の併の繪 赤

二十四段

一 黒玉の珠敷

作一あきり形

一 白布巾の指 字門の法教

三十一

一 右肩の

一 袷の羽織の格成 異國 異物 異

三十一

一通り

一 袖のまをこし入 油

作一まをこし入 油

作一異國人の格成 異物のまをこし入 油

ヤム地のよーヤム

一 控物の少巻衣

三十一

作一内子 ぶらまの 控物を新うと集 赤

一 袴袴の中巻衣

三十一

作一明きのの

一 内子巻衣

三十一

作一明きのの

一 袴

三十一

一 褌の御入

三十一

一 鞆目鏡

三十一

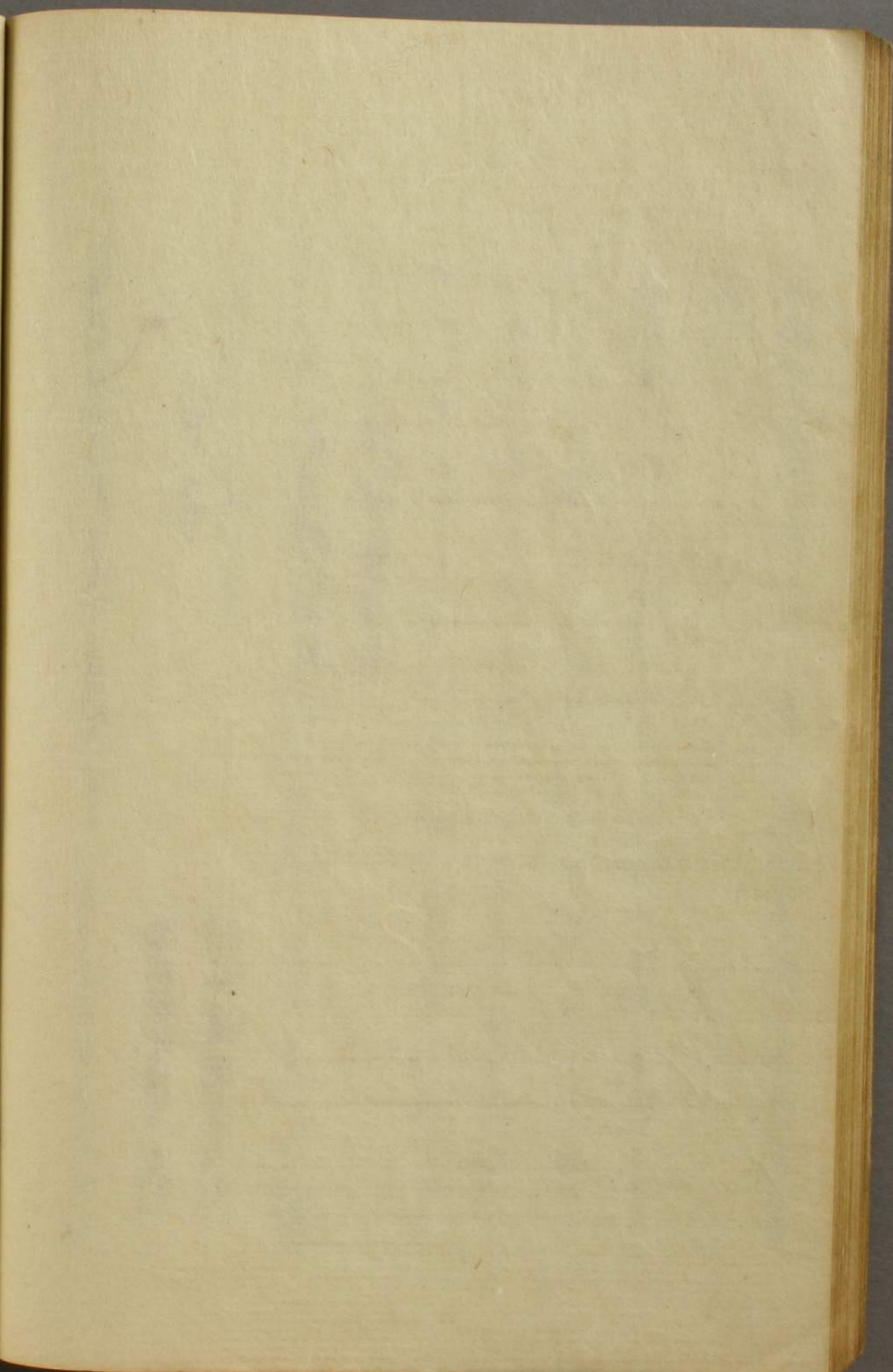
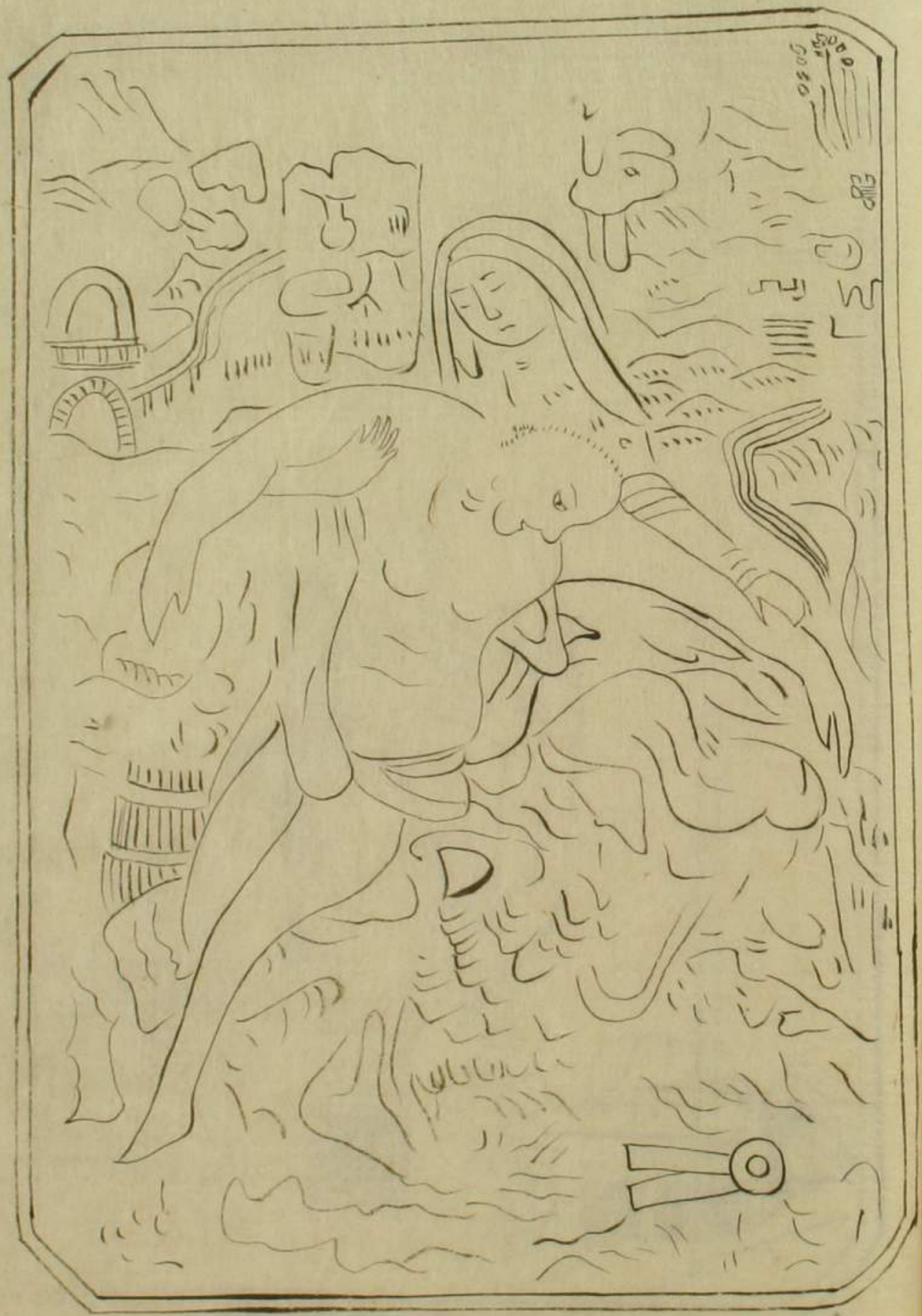
少部お邊 官社、在る人も、新物も、此迄、年々少く、此迄、
少部、お邊、官社、在る人も、新物も、此迄、年々少く、此迄、

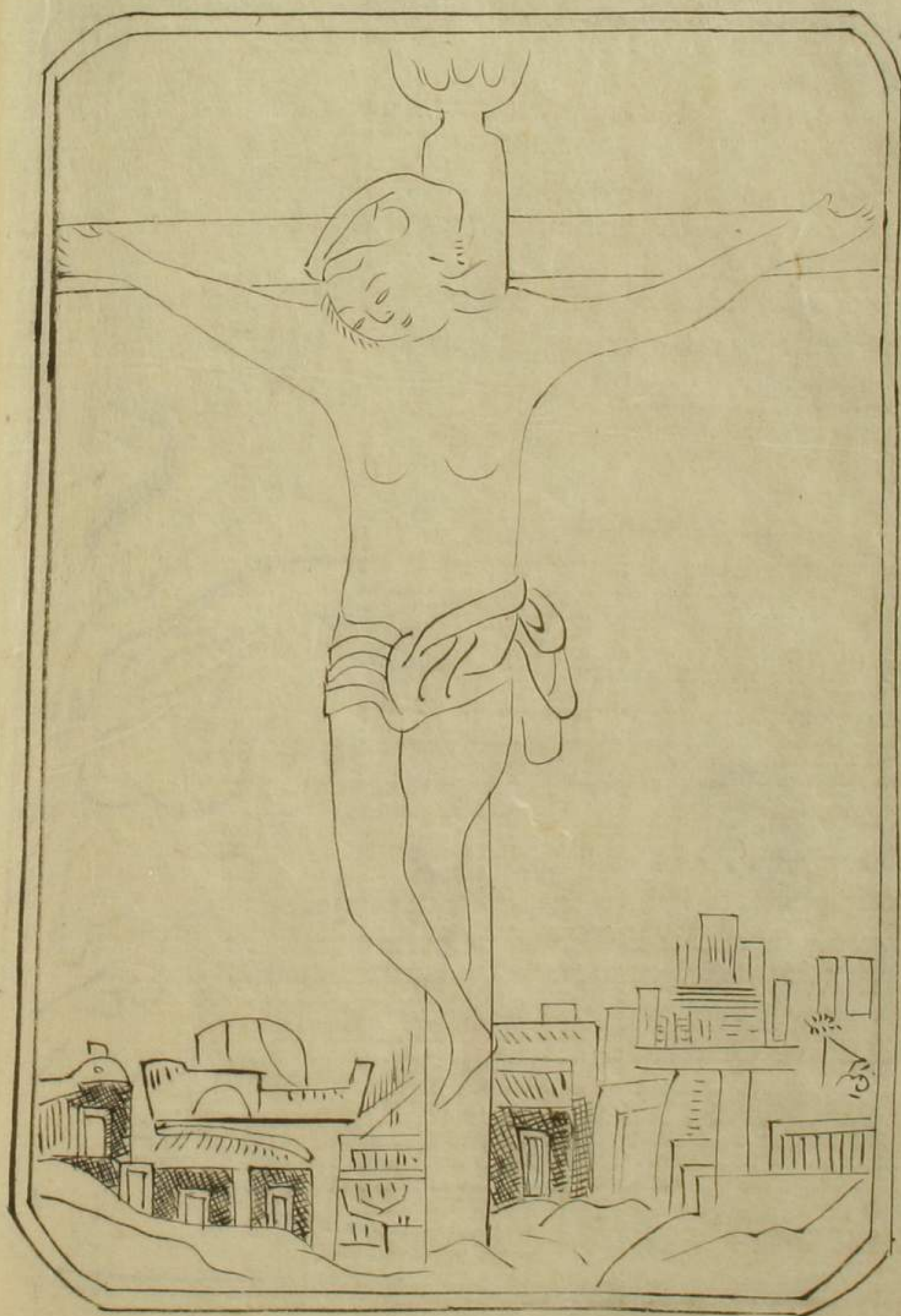
一 此迄、お邊、官社、在る人も、新物も、此迄、年々少く、此迄、
少部、お邊、官社、在る人も、新物も、此迄、年々少く、此迄、

一 此迄、お邊、官社、在る人も、新物も、此迄、年々少く、此迄、
少部、お邊、官社、在る人も、新物も、此迄、年々少く、此迄、

一 此迄、お邊、官社、在る人も、新物も、此迄、年々少く、此迄、
少部、お邊、官社、在る人も、新物も、此迄、年々少く、此迄、

菅沼定主云大々因ノ如ヒシニウニテ縁ノ高五分程西ハヒハ丸ク足附キ豆ノ高サ
 五ノ程惣高サ一寸程繪彫上々ニテ至テ羨観ナルモナリ此繪廿五牧アリト云各違
 候哉其既ハ不知云豊前国中津ニテ宗門改ノ節傳年長崎御藏ヨリ





并借シテ上ニ板ヲ加ヌキ置踏スルト云此四枚ニ定主其改役ニカ、リタル時見タ
 ルヲ写シルト云

今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる

今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる

今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる

今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる

日本国中 昔時

鎌内 古記 びきん

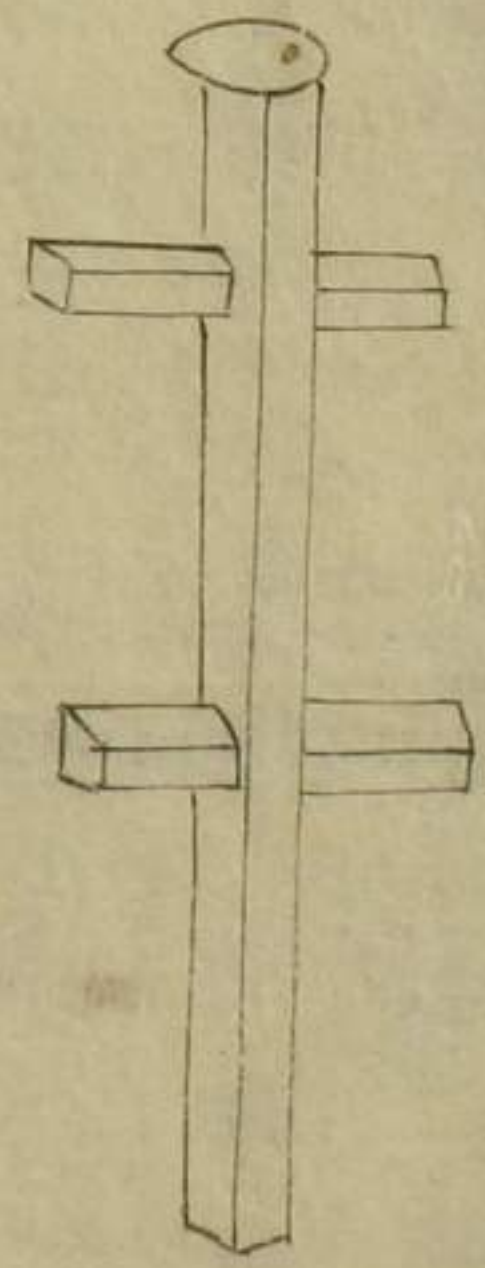
年 数 月 日

年 数 月 日

今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる
今も水は流る水も高に水が下へくはる



是モ唐銅鑄物
朝暮拜之



木ニテ作り廻々ニ文字
彫付タル物之家外ニ
立置テ是モ朝暮
拜ス

如圖俗ニ十文字ト云フ言國禁ノ邪宗ニ用シ佛像等
キ物ヲ信シ甚キ故其佛說ヲ探ニ亦人語曰令シロシイ
ヤノ佛法極意ニシイテ別義ナシ惟天帝ヲ祭り天理ニ合

シ本ト爲テ愚昧ノ者ヲ教化セシメシガ爲ニ品々方便ノ佛像ヲ
見ス十ノ字ノ形ナルハ磔木也佛祖ホホマテリト云者元来
終身寡居ノ賢女ナルニ天帝ノ精氣ヲ受テ孕ミ月ヲ經
テ一男子ヲ産ヌ然ルニ此兒生レナカラニメ衆生ヲ濟度セ
シト欲シ法ヲ真メ教化ス時下ノ者ノ爲ニ刑セラル、コアリ然
不憂之惟天理ニ任セテ終仏法ヲ弘ム則其磔木ニ懸ル
姿及ヒ成佛セシ取之姿ナリ

邏
瑪
款
帖
終



